

## 松瀬青々師の初期作品補遺

松瀬青々師は、高濱虚子の推輓に加え、正岡子規の「ほと、ぎすの為にハ此上なき仕合」という書状を得て、明治三十二年（一八九九）九月三十日に上京、「ほと、ぎす発行所たる虚子君の居」に身を寄せ、「ほととぎす」の編集に携わることとなる。ただ、家庭の事情などあり、東京暮らしは翌明治三十三年五月二十五日で終え、大阪に戻った。僅か八ヶ月の東京滞在ではあったが、この間、幾度となく子規と句座を共にしており、青々にとつて、子規の警咳に接し得たいへん貴重な時間であった。当時の句会記録は『子規全集』第十五卷「俳句会稿」（講談社、昭和五十二年七月十八日）に詳しく、青々の俳句も五十句余を確かめられるが、『松瀬青々全句集』にはそのほとんどが録されていない。これは残念なことであるので、『子規全集』を底本として、以下、ここに掲載し、今後の研究に資す。

\*

明治三十二年四月十九日

池ありて小き瀧落つつ、じ哉

題 池（選…五城）

遠足の脚をもましつ春の宵

遠足（…五城）

鳥籠に今か入れたるはこべ哉

繫縷（…四方太・碧梧桐・麥人）

酒買ひに堤に上る汐干哉

題の記載なし（…活東）

小鼓の濱にひゞくや汐干舟

同（…五城）

汐干舟の二艘並んで歸りけり

同（…活東・麥人）

右、『妻木』に〈汐干舟二艘並べて戻りけり〉として収録。全句集では制作年月未確定句である。

買ふて來た蛤配る汐干哉

同（…子規）

右、〈買ふて来し蛤くばる汐干かな〉の句姿で『春夏秋冬』に収録。全句集では明治三十三年四月に採録。

明治三十二年十月八日朝より

家々に煙草干したる小家哉

題 〓 干煙草（選 〓 鬼史・活東・道三）

日出るや野分の跡の庭掃除

〓 野分（〓 墨水・格堂・坦々・活東・鬼史）

鶏頭や物や、寒き住みところ

〓 達磨に題す（〓 虚子・抱琴）

昼前の庭静なり葉鶏頭

〓 葉鶏頭（〓 虚子・竹子）

柿畑を通つて行くや菌狩

〓 草（〓 鬼史・虚子天・坦々・紫人）

右、「ほととぎす」明治三十二年十月号掲載。同年月で全句集に採録。

杉桶の美しくしてひしこ漬

題の記載なし（〓 格堂・孤雁）

鶺鴒や日のあた、かき河原道

題の記載なし（〓 五城）

籠の中の松茸薫る台所

題の記載なし（〓 南陵・紫人）

商人の般若よみけり宵の秋

題の記載なし（〓 鬼史・抱琴・穆堂・子規）

右、「ほととぎす」明治三十二年十月号に〈商人の般若読みけり宵の秋〉の句姿で掲載。同年月で全句集に採録。

明治三十二年十月（二十三日）道灌山（胞衣神社）〔露月送別句会〕

心ほど紅葉そめたる木立哉（選 〓 四方太）

山茶花の家を別の筵かな（〓 子規）

右、「ほととぎす」明治三十二年十一月号掲載。同年月で全句集に採録。

明治三十二年十二月十日 十二月十日会

送別の蕙つめたき思哉  
(…四方太・虚子)

見はるかす縁冷かや筑波山  
(…碧梧桐)

遥なる草に紛れぬ秋の蝶  
(…五城)

うら枯れし茂りの中やはた芒  
(…繞石)

ひこばえの紅葉なつかし何の木ぞ  
(…四方太)

我住まば鶏頭植ん芝生かな  
(…碧梧桐)

冷かや青紅の古にぎて  
(…虚子・五城)

題||借著(冬又は新年)(選…鳴雪・虚子・塵外・墨水)

||冬の蠅(…虚子天・五城)

右、『春夏秋冬』に収録。同年月で全句集に採録。

||水柱(…鳴雪)

||目鏡(…虚子)

題の記載なし(…碧梧桐)

||寒声(…鳴雪・碧梧桐・墨水・翠竹)

||霜よけ(…塵外・墨水・子規天・竹子・藜杖・

五城・李坪・鬼史)

水をひく吐樋水柱や冬紅葉  
眼鏡して古き暦をよみにけり  
薔薇さいて家静か也クリスマス  
寒声の四十をすぎしうき身哉  
霜よけの下なつかしき青葉かな

右、「ほととぎす」明治三十二年十二月号に掲載。同年月で全句集に採録。

明治三十二年十二月二十四日 根岸子規庵 蕪村忌

題の記載なし（選…三子）

蕪村忌や三間の襖を開け放ち

題 風呂吹（…文漪・四方太）

風呂吹は釜の蓋とる匂ひかな

枯野（…繞石・燕洋）

をち方の村に灯ともす枯野哉

若餅（…芹村）

若もちの薙やそはに袖たゝみ

大晦日（…抱琴・牛供・世南）

此家の古き行灯や大晦日

右、〈此家の古き行燈や大三十日〉の句姿で『春夏秋冬』に収録。全句集では明治三十三年十二月に収める。

乾鮭（…碧梧桐・子規人・森堂・燕洋・月兎・

乾鮭をあるが上にも貰ひけり

虚白・翠竹）

右、〈乾鮭のあるが上にも貰ひけり〉の句姿で『春夏秋冬』に収録。全句集でも年月同じ。

懷炉（…子規・李坪・鳴雪）

打あけし懷炉の灰や桐火桶

右、〈打ち明けし懷炉の灰や桐火桶〉の句姿で明治三十四年二月の新聞「日本」に掲載。同年月で全句集に採録。

明治三十三年一月十四日

題 毛布（選…五城）

孫康が被りふるせし毛布哉

同（…五城）

毛布や盧生が夢のぬくもほり

右、〈毛布に盧生が夢の最中哉〉の句姿で『妻木』に収録。全句集では制作年月未確定句である。

あか星や初荷車の灯の揺き

|| 初荷（：鳴球）

鬣や初荷の馬の五色絹

|| 同（：繞石・五城・奇北・秋蘭）

錦木や垣根の土の霜くづれ

題の記載なし（：子規天・五城・穆堂）

右、〈錦木や垣根の土の霜崩れ〉の句姿で『妻木』に収録。全句集では制作年月未確定句である。なお、霜崩れは霜柱の異称。

鶯の木隠れにけり冬の川

題 || 冬の川（：三子）

銭湯や蓆の上の投頭巾

|| 銭湯（：五城）

福寿草爐縁に疎き横畳

|| 福寿草（：鳴球）

白蔵主頭巾忘れてた、れけり

|| 狐狸宴会図（：五城・鳴球・虚子・碧梧桐地・繞石）

灯台や寒き障子の影法師

|| 同（選者欄、空欄）

初曆我世占ふかゝり人

|| 初曆（：五城）

右、〈初曆我世うらなふかゝり人〉の句姿で『妻木』に収録。全句集では制作年月未確定句である。

明治三十三年五月四日

蚊遣して目出度宵を語りけり

題 || 東宮御慶事（選：墨水・四方太）

古稀の賀や蚊遣くすべて老の夏

|| 古稀祝（：孤雁）

活けさせて余りさがるや藤の花

|| 藤（：墨水・格堂）

草庵や人待つ盆の榭餅

|| 榭餅（：謀堂・牛伴）

